

SKY コーナー

「2016 ITEA信越安全大会」開催

身につけよう！基本動作の習慣化 育てよう！危険予知と対応力
～不安全な状態を作らない、不安全な行動をしないための基本動作の習慣化と、
危険を感じ、予知し、回避する措置や行動を起こせる対応力の向上～

情報通信エンジニアリング協会 信越支部

(一社) 情報通信エンジニアリング協会信越支部主催、NTT東日本・NTTグループ各社様の後援により「2016 ITEA信越安全大会」を去る平成28年8月31日に長野市、9月7日に新潟市において開催しました(写真1)。本大会は、平成23年度にITEA信越安全大会としてスタートし、今回で6回目の開催となりました。

大会メインテーマは、今年度はじめより連続して発生している事故に着目し、その事故の主要因を「基本動作の不徹底」「近道行動」ととらえ、これらを引き起こしているのは、緊張感の欠如、確認作業の手抜き、現場マネジメント不足と分析しました。そこで、改めて私たちは、不安全な状態を作らない、不安全な行動をしないための基本動作の習慣化と、危険を感じ、予知し、回避する措置や行動を起こせる対応力を、本気になって身につけなければならないと痛感し、「身につけよう！基本動作の習慣化 育てよう！危険予知と対応力」を大会テーマとしまし

た。また、前大会に引き続き協力会社社員の皆さんから安全標語を募集し、優秀作品に選出された「見る目 気づく目 注意の目 基本に戻って再確認 正しい作業でゼロ災職場 (長野大会)」「気を抜くな！ 守る原則 進める手順 しっかり実践 安全職場 (新潟大会)」を掲げて開催しました。

来賓にNTT東日本・NTTグループ各社の幹部の皆様をお迎えし、ITEA会員各社および協力会社の現場第一線の社員の皆さんが長野と新潟の2会場に集結し、約900名の参加となりました。

大会は、参加者全員での大会テーマの唱和からスタートし、ITEA信越支部長の挨拶、来賓者様からのご挨拶・ご講演、代表会社様による改

善事例発表、危険体感デモ、安全ビデオの視聴を行い、最後に安全決意表明と参加者全員による安全唱和で幕を閉じました。また、屋外・ロビーでは展示ブースを設け、NTT東日本グループ会社様、通建会社様、メーカー様による機械器具工具等の展示を行いました。

大会テーマ唱和

今年度の大会より、参加者全員の本大会に向かう意識を統一させるために、開会スタートに合わせて司会者のリードによる大会テーマ「身につけよう！基本動作の習慣化 育てよう！危険予知と対応力」の唱和を行いました(写真2)。



写真1 大会模様



写真2 大会テーマ唱和

小川支部長挨拶

主催者を代表して小川信越支部長から「安全文化の創造」と題して講話がありました（写真3）。

信越および全国における人身・設備事故の発生状況について触れるとともに、信越の事故分析では、今年度に入り残念ながらすでに3件の人身事故（長野で1件、新潟で2件）が発生し、これは昨年1年間と同数で非常事態であり、誤接続等の事故はないものの残念ながら、減少傾向とは言えない状況であると述べました。

次に、「絶対に起こしてはならない事故」の状況では、『高所からの転落』が後を絶たない状況から、死亡事故を回避する重要なキーワードととらえ一層の注意を払う必要があること、その上で、過去に起きた事故を風化させずに再発させない取組みが必要であると述べました。

上記の内容を踏まえて、作業員1人ひとりが、基本動作の必要性をしっかりと理解し、基本動作を確実に実践することが最も大事であるとしながらも、基本動作を徹底できないことが課題であるとし、基本動作を徹底するために、「安全意識の高揚」、「全員参加（全プロセス）による安全の確保」、「プロ意識・責任意識の徹底、リーダーシップの発揮」、「安全施策の棚卸し・悪循環からの脱却」が必要であると述べました。



写真3 小川支部長挨拶

また、提案として、「事件事例の共有範囲の拡大」では、NTT様が推進するビジネスユーザ市場の開拓、光コラボモデルの推進により新たな事業領域が創出される中で、私たち通建会社が貢献させていただけることがたくさんあり、そのためには、安全と品質をしっかりと担保してNTT様から信頼していただくことが重要となり、これまでのインフラ工事で蓄えた事故情報や安全対策などのノウハウを、今後拡大していく一般民需工事との間で共有し、安全の確保を広げて行かなければならないと述べました。

「時間内の携帯・スマホ等の私的利用によるトラブル」では、業務時間中における携帯・スマホ等の私的利用は原則として禁止であり、そういった行為から引き起こした事故については業務災害として保証されないばかりでなく、個人においても厳しい行政処分・刑事処分など重い責任が課せられると述べました。

最後に、事故を撲滅するには1人ひとりが意識して地道な取組みを継続することが必要と述べ、「皆さん1人ひとりの感性で危険を認識し、基本動作を徹底することで信越から人身事故・設備事故を撲滅させましょう!!」と力強いメッセージで締めくくりました。

来賓挨拶

来賓を代表してNTT東日本ネットワーク事業推進本部エンジニアリング部エンジニアリング部門 担当部長 岩佐 健次様からご挨拶をいただきました（写真4）。

人身事故を振り返り事故の件数は昨年度を上回る状況で、「忘れてはならない重大人身事故」は2件発生、その他にもNTTグループ全体では鉄塔からの転落事故や、シャフ

トドライブウィンチ巻き込まれ事故が発生し、この危機的状況で皆様と改めて連携しながら事故の再発防止に努めるとともに、構造改革委員会で定めた「安全安心で働ける環境」を早期に実現したいと述べられました。その中で、今大会テーマにも通じる内容でお願いしたいことが「不備の排除」・「無理の排除」の2点で、安全装備等ハード面の守りを確実に準備していただきたいということ、大規模・難易度の高い工事では自分たちの持っているスキルをチェックし、不可能な場合は専門業者に依頼をするなど、無理のない作業を実施していただきたいということでした。

また、工事量の確保として、ビジネス開通力強化に取り組んでおり、新たな事業領域の拡大にご協力をいただき、その上で、皆様がお持ちの開通ノウハウ、民需ビジネス業務の中から「これはできる!!」というものをぜひご提案いただきたいと述べられました。

最後に、暑い日もまだまだ続き、疲れが出やすい時期でもありますが、体調管理をしっかりとし、無理のない作業計画を実施してくださいとの話をいただきました。



写真4 来賓挨拶

特別講演

長野会場では「NTT東日本の事業動向および事故撲滅に向けての取り組み」と題してNTT東日本長野支店長 長門 徹様から（写真5）、新潟会場では「NTT東日本の事業動向と安全・品質向上の取り組み」と題して、NTT東日本新潟支店長 山本 健一様から講演をいただきました（写真6）。

長門支店長様、山本支店長様ともに、「NTT東日本の事業動向」、「安全への取り組み」についてご説明をいただきました。NTT東日本の事業動向については、平成28年度の取り組みのポイントとして、「ビジネスユーザー市場攻略」、「光コラボモデルの推進」、および、「経営効率化、

生産性向上」の内容について述べられ、安全への取り組みに関しては、平成28年度に起きた人身・設備事故状況をご説明いただき、その上で、安全意識のさらなる向上に向けた取り組みとして、危険体感研修の実施について述べられました。

改善事例発表

長野会場では(株)NTT東日本－関信越・(株)ミライト・NDS(株)・(株)アルスター・(株)TOSYSの5チーム、新潟会場では(株)NTT東日本－関信越・日本コムシス(株)・(株)協和エクシオ・(株)トーシス新潟・(株)TOSYSの5チームにより、日頃、業務の中で取り組んでいる安全活動の中から表1のテーマについて発表と熱心な質疑が行われました（写真7～16）。



写真5 長野支店長様



写真6 新潟支店長様

表1 改善事例発表テーマ

会場	発表テーマ	会社・所属	発表・PC操作	写真No
長野大会	1 安全意識向上への取組み ～褒める仕組みの充実～	(株)NTT東日本－関信越 設備部 エンジニアリング部門 長野施工管理担当	発表：小池 俊夫 操作：松井 淳	写真7
	2 「かんたん位置情報システム」による業務の効率化	(株)ミライト NTT事業本部 アクセス事業部 安全品質管理部門	発表：竜口 壮洋 操作： —	写真8
	3 工事中サービス中断時間短縮	NDS(株) モバイルネット事業本部 ドコモ事業 部 エンジニアリング部	発表：山浦 資智 操作：森 泰生	写真9
	4 ヘルメットのヘッドライト固定方法について	(株)アルスター 電設ITビジネス事業部 ITビジネス部門	発表：堀内 篤志 操作：飯田 翼	写真10
	5 代理購入ケーブルの有効活用に向けた仕組み作り	(株)TOSYS 長野通信システム事業部 施工部門	発表：佐々木 智功 操作：木下 良則	写真11
新潟大会	1 H28年度 安全に関する取組み	(株)NTT東日本－関信越 新潟支店 設備部 渉外担当	発表：斉藤 恵一 操作：小川 修	写真12
	2 雪害に負けない設備づくりに向けて	日本コムシス(株) 長岡事業所	発表：白澤 宏之 操作：丸山 健一	写真13
	3 二重床周辺作業の安全施策について	(株)協和エクシオ 安全品質管理本部 技術開発センタ	発表：鶴田 勉 操作：芳賀 滋	写真14
	4 産業廃棄物処理に伴う安全の確保について	(株)トーシス新潟 社会基盤事業本部 環境事業部門	発表：枝村 哲太 操作：小嶋 望	写真15
	5 現場調査における「持出情報のセキュリティ対策」について	(株)TOSYS モバイル事業部	発表：本間 悌彦 操作：板井 亮	写真16



写真7 NTT関信越（長野会場）



写真12 NTT関信越（新潟会場）



写真8 ミライト



写真13 日本コムシス



写真9 NDS



写真14 協和エクシオ



写真10 アルスター



写真15 トーシス新潟



写真11 TOSYS（長野会場）



写真16 TOSYS（新潟会場）

危険体感デモンストレーション

今回の大会では、体感セットを昨年に引き続き、NTT東日本様からお借りし、「張力体感」、「安全带ぶら下がり体感」、「検電体感」の3つの体感を実演しました（写真17～19）。

「張力体感」は、引込線が柱間分岐されている状況を想定した設備で、3名の方に体感してもらいましたが、皆さん揺れ幅に驚いている様子でした。

「安全带ぶら下がり体感」では、安全带を腰周りとお腹周りに装着した場合の違いを体感していただきました。腹周りにつけると内臓が破裂してしまうのではという感覚を体感していただきました。

「検電体感」では、50ボルトの電圧が印加された単管パイプを電柱とし、検電器を用いて正しい検電の方法を体感していただきました。体感者の皆さんは普段使用している検電器の使い方が正しいかどうかを再度確認することができました。

安全ビデオ視聴

『忘れてはならない重大人身事故』ここ数年で発生した、決して忘れてはならない重大人身事故の事例を再現した安全ビデオを視聴しました。この映像から、基本動作を徹底すること、現場での危険を事前に感じる感性を育てることを基本とし、全員が安全に関する意識を改革していかなければならないと改めて感じました。



写真17 張力体感

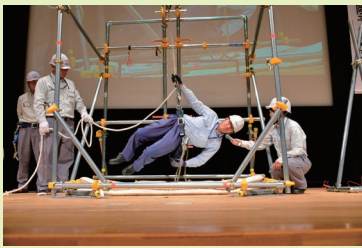


写真18-1 安全帯ぶら下がり体感
(腰周り)



写真18-2 安全帯ぶら下がり体感
(腹周り)



写真19 検電体感

安全標語表彰

優秀作品に選出された「見る目
気づく目 注意の目 基本に戻って
再確認 正しい作業でゼロ災職場
(長野大会)」「気を抜くな！ 守る
原則 進める手順 しっかり実践
安全職場 (新潟大会)」を作られた
協力会社社員の方々へ小川支部長より
感謝状と記念品の贈呈が行われました
(写真20・21)。

表彰された方々の標語に込めた思いは、「私自身、慣れや思い込みなどをする事があり「初心を忘れないように」と思いますが、日が経つにつれてまた慣れが出てきます。当たり前・簡単な事ほど面倒で省きやすいものですが、ルールなどはそうすべき普通のことでは省くべきことではないものです。作業中はもちろん移動時や事務処理などの書面の取り扱いなどにも基本ルールがあり、面倒だと思ったり不安を感じたら一呼吸おいて周囲をもう一度みて自分自身を見つめ直し、仲間にも一声かけて基本を守り自分と仲間の安全を守る事ができればと思っています。(長野大会)、「事故速報が回ってくるたびに「この方にも家庭があるのかな。辛い思いをするのは本人だけではないのだろうか」などと想像すると、毎回とても心が痛みます。私は事務をしているので現場で起こる事故を身近に感じることはあまりないのですが、自分自身が車を運転して焦っている時などに、つつい無理をしてヒヤリとしたことが何度もあります。そういった経験から、気を抜いたり面倒くさがったりせず手順やルールを守っていれば事故が防げるのではないかと、自分自身への反省も込めて標語に託しました。(新潟大会)」ということでした。



写真20 安全標語表彰
(長野：小平亮二さん)



写真21 安全標語表彰
(新潟：佐藤ミヤ子さん)

ゼロ災の決意表明・安全 唱和

大会の結びとして、協力会社代表による以下のゼロ災の決意表明、参加者全員による安全唱和を行いました(写真22～24)。

「[2016 ITEA信越安全大会]にお集まりの皆様、ご来賓のNTTグループの皆様。今、信越エリアでも、モバイル・ブロードバンドの進展によりコミュニケーション手段が多様化し、光サービスの重要性がますます高まっており、安心ネットワーク構築に向けた管理CP更改、所内系設備のシンプル化撤去に取り組んでいる真っ最中です。これらの工事を安全に完了させるために私たちは今日の安全大会でご講演いただいた内容や、各発表、改善に向けた展示の思いを十分に理解し、自分のものとして職場に展開していくことが責務であり、多くの仲間達に伝えていく事が大切であります。全国的にも重大な事故が多発している中、信越エ

リアにおいても昨年度は人身・設備事故や情報漏洩事故が発生しました。

また、今年度に入っても十日町エリアでの人身事故や所内系工事においてケーブル誤切断などの設備事故が発生し、歯止めがかからない状況が続いています。私たちは今までの事故事例を自分の身に置き換え、再発防止対策を確実に実施すると共に、お客様やNTTグループ様の信頼を回復するために、次のことを守って作業を進めます。

- ・一つ 自分の身は自分で守ります
- ・一つ 仲間の不安全行動はお互いに注意します
- ・一つ 基本動作を守って安全に作

業します

- ・一つ 個人情報などお客様情報は十分注意して取り扱います
- ・一つ 日々安全意識の醸成に努めます

以上、信越エリアにおける人身事故・設備事故・セキュリティ事故ゼロを達成するため全員一丸となって取り組んで参ります。」という力強い宣言を行い、最後に大会スローガンを読み上げゼロ災の決意表明としました。

安全・VE展示

NTT東日本 技術協力センタ様、
NTT東日本-関信越様、NTT REC

様、アイチコーポレーション様、イワブチ様、高千穂産業(株)様、通建会社6社が、作業性改善、安全・品質向上につながる提案品を展示しました(写真25~27)。展示コーナーでは、各社VE提案品に直接触れて説明を聞くことにより、参加者は安全・品質改善取組みの重要性について再認識することができました。

終わりに本安全大会の開催にあたりご協力をいただいたNTTグループ・通建各社の皆様に厚く御礼申し上げます。



写真22 決意表明
(長野：高橋研斗さん)



写真24 安全唱和



写真26 展示コーナー
バードロップ



写真23 決意表明
(新潟：島田修次さん)



写真25 展示コーナー
ノボラナカッター

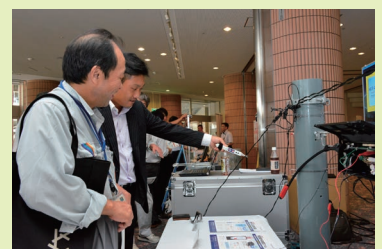


写真27 展示コーナー
残置屋外線確認ツール